

平成27年度「宇北高等学校評価アンケート」結果

1 調査の概要

学校評価の一環として、本校を保護者、生徒、教職員はどうとらえているかを調査した。本年度の重点目標に対する3項目を含め、可能な限り共通の質問を用い、三者の意識の違いを比較した。また昨年との比較も行った。

回答については A:大いにそう思う、B:そう思う、C:あまり思わない、D:全く思わない、の4つの選択肢を用い、保護者対象のものだけ E:わからない、を加えた。

	生徒	保護者	教職員
回答者数	949	861	66
回答率	98.6%	89.5%	95.7%
調査日	平成27年11月19日	平成27年11月19日～27日	平成27年11月24日～27日

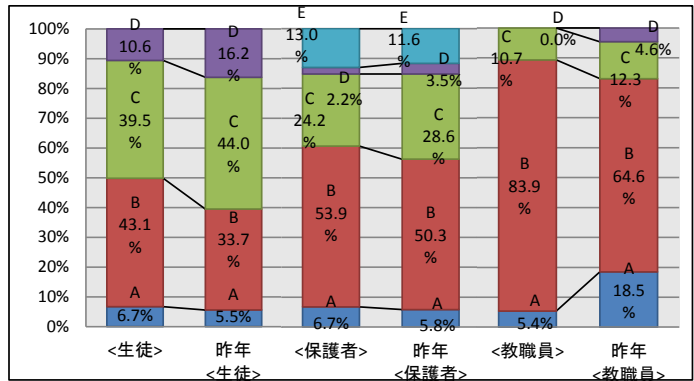
2 質問事項と集計結果

【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

【重点目標①】

学力の伸長

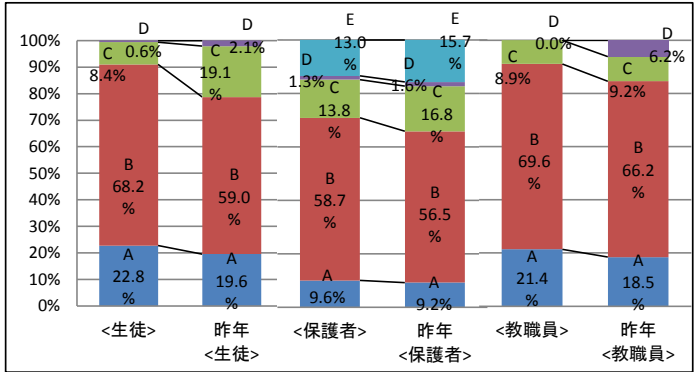
<生徒>	私は、宇北高に入学して学力が向上している。
<保護者>	宇北高の教育は入学した生徒の学力を伸ばしている。
<教職員>	本校の教員は、授業を通して、確実に学力を付けさせている。
◇教職員ではAの「大いにそう思う」が13ポイント減っているが、Bの「そう思う」を併せた肯定的な評価はおよそ6ポイント増になり、生徒、保護者、教職員ともに肯定的な評価は増加している。特に生徒は肯定的な評価が昨年比でおよそ10ポイント増えており、約半数の生徒が学力向上を感じるようになったようだが、教職員側の評価との差が大きい。	



【重点目標②】

進路の実現

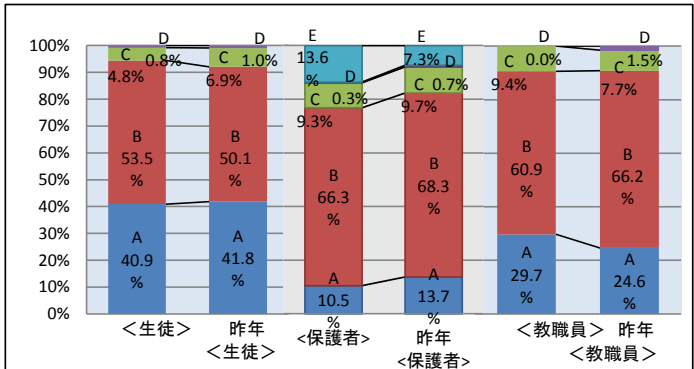
<生徒>	宇北高の先生は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
<保護者>	宇北高の先生は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
<教職員>	本校の教員は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
◇Aの「大いにそう思う」とBの「そう思う」を併せた肯定的な評価が生徒でおよそ12ポイント、教職員でおよそ6ポイント増加しており、どちらも90%以上が本校の進路指導を肯定的に評価している。一方、保護者はAとBを併せた肯定的な評価は増加しているものの、Cの「あまり思わない」とDの「全く思わない」を併せた否定的な評価が約15%と、三者の間では最も高く、また「わからない」も13%あって、生徒および教職員と保護者との認識の間に差があることが分かる。	



【重点目標③】

ルール・マナーの遵守

<生徒>	宇北高の先生は、生徒に対してルールやマナー（服装、遅刻、礼儀、交通安全等）を守るよう指導に努めている。
<保護者>	宇北高の先生は、生徒に対してルールやマナー（服装、遅刻、礼儀、交通安全等）を守るよう指導に努めている。
<教職員>	本校の教員は、生徒に対してルールやマナー（服装、遅刻、礼儀、交通安全等）を守るよう指導に努めている。
◇教職員でAの「大いにそう思う」がおよそ5ポイント増えているほかは、生徒、教職員については、A～Dの回答に前年とあまり大きな変化はない。一方、保護者はCの「あまり思わない」とDの「全く思わない」を併せた否定的な評価の割合は変わらないものの、AとBを併せた肯定的な評価が減って、その分「わからない」が増えている。また、40%を超える生徒が「大いにそう思う」と答えているのに対して、「大いにそう思う」と答えた保護者は前年よりも減っておよそ10%にとどまり、ここでも認識の違いがみられる。	

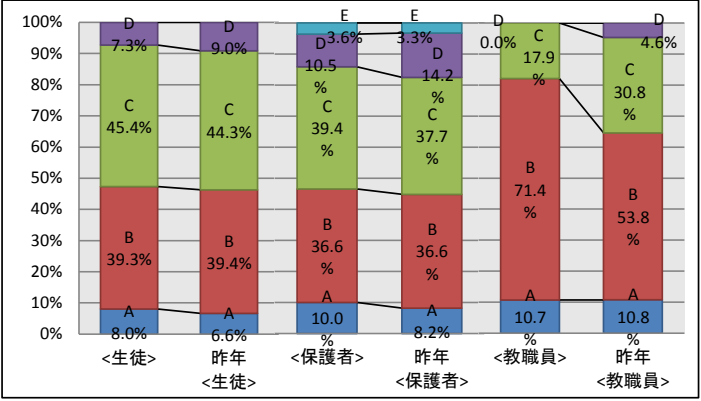


【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

【 学習指導 ① 】

予習復習の徹底

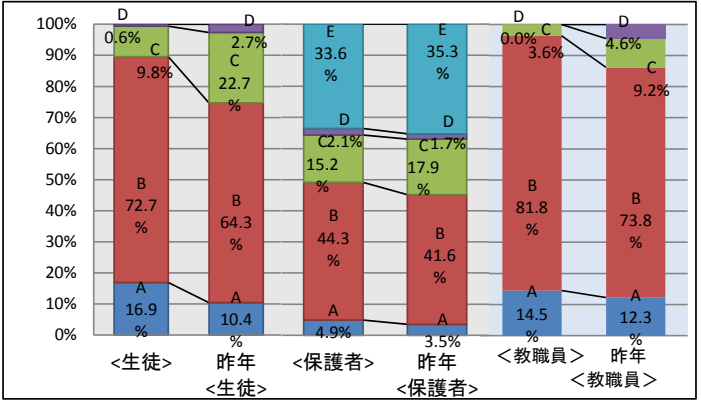
<生徒>	私は、毎日予習・復習をして授業に臨んでいる。
<保護者>	私の子供は、毎日予習・復習をして授業に臨んでいる。
<教職員>	本校の教員は、毎日の予習・復習など家庭学習の習慣を身に付けさせている。
◇生徒と保護者はほぼ同じような傾向をみせており、「予習・復習をして授業に臨んでいる」と思っている生徒・保護者は、前年度よりは若干増えている。しかし、「大いにそう思う」と「そう思う」を併せても半分に達しておらず、生徒、保護者の半数以上はまだ家庭学習の習慣が十分に身につけていないと評価している。一方教職員は、「大いにそう思う」は前年と同じ10%程度であったが、「そう思う」が大きく増えて、「大いにそう思う」と併せると80%を超える教職員が肯定的に評価し、生徒・保護者との認識に差がみられる。	



【 学習指導 ② 】

わかりやすい授業

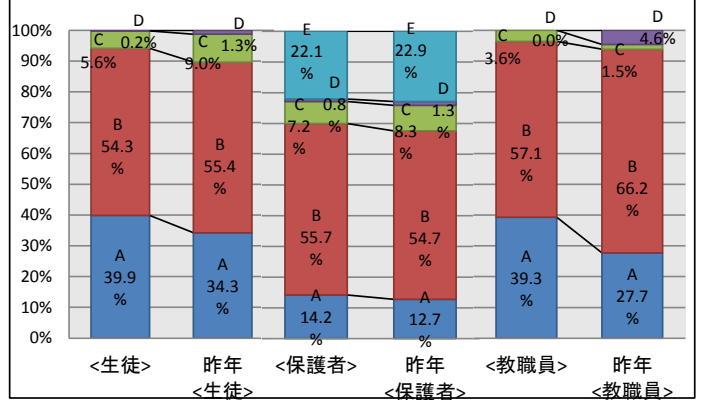
<生徒>	宇北高の先生はわかりやすい授業を行っている。
<保護者>	宇北高の先生はわかりやすい授業を行っている。
<教職員>	本校の教員はわかりやすい授業を行っている。
◇「大いにそう思う」と「そう思う」を併せた評価は生徒で15ポイント、教職員で10ポイント増えている。特に生徒については、学年別に年度ごとの評価の変化を見た場合、例年は1年から2年になると評価が下がり、2年から3年になると評価が上がる傾向があったが、今年度は2年での評価が下がることなく、むしろ肯定的な評価が12ポイント増えていることが大きな特色といえる。その結果、全体として生徒の肯定的な評価が大きく増加した。一方、保護者については肯定的な評価は増えてはいるが、30%以上が「わからない」と答え、また、CとDを併せた否定的な評価の割合も17%と、三者のなかでは最も高くなっており、評価の違いがみられる。	



【 生活指導 ① 】

生徒からの相談

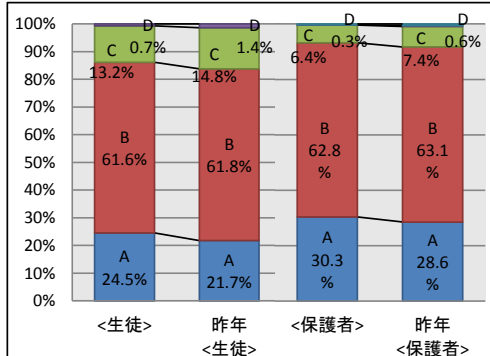
<生徒>	宇北高の先生は生徒からの相談に誠実に対応してくれている。
<保護者>	宇北高の先生は、生徒からの相談に誠実に対応してくれている。
<教職員>	本校の教員は生徒からの相談に誠実に対応している。
◇生徒と教職員はほぼ同じような傾向で、「大いにそう思う」が生徒で5ポイント、教職員で12ポイント増え、どちらも「そう思う」と併せた評価は90%を超える。一方保護者は「あまり思わない」と「全く思わない」を併せた否定的な評価は8%程度であるが、「大いにそう思う」が14%に留まり、「わからない」も20%を超えている。この設問も例年2年生で肯定的な評価が減り、3年で増加する傾向があるが、今年度は2年生での落ち込みがなく、AとBを併せた肯定的な評価が約4ポイント、Aのみでは10ポイントの増加を見せ、全体として肯定的な評価を増加させている。	



【 生活指導 ② 】

規則の遵守

<生徒>	宇北高生は、服装、頭髪など学校の規則を守っている。
<保護者>	私は、子供の服装、頭髪、交友関係や遅刻等に常に関心を払っている。
◇生徒、保護者ともに「大いにそう思う」と「そう思う」を併せた肯定的な評価が若干増加しているが、傾向は前年度と大きく変わらない。この設問では「あまり思わない」と「まったく思わない」を併せた否定的な評価が、保護者よりも生徒に多く、生徒のほうが厳しい見方をしているといえる。	

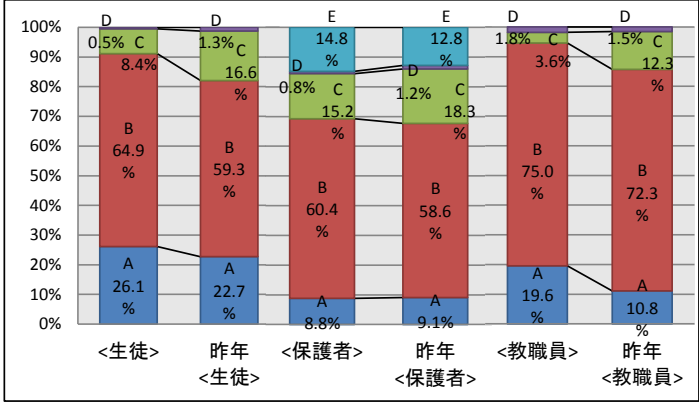


【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

【進路指導】

進路情報

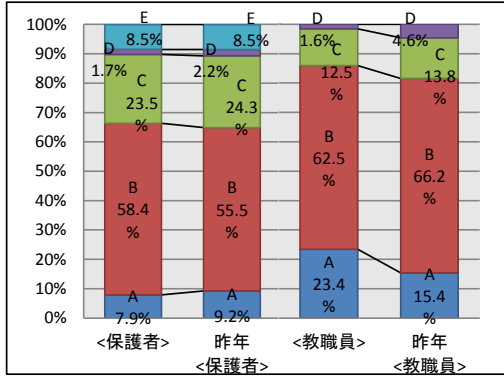
<生徒>	宇北高が提供する進路情報は、役に立っている。
<保護者>	宇北高が提供する進路情報は、役に立っている。
<教職員>	本校が提供する進路情報は、役に立っている。
◇質問の内容が共通するため、重点目標の②と似た傾向である。生徒と教職員は、「大いにそう思う」と「そう思う」を併せた肯定的な評価が10ポイント前後増加して、全体の90%以上が肯定的な評価になっている。これに対して保護者は、「あまり思わない」と「まったく思わない」を併せた否定的な評価は、前年度よりは若干減っているものの、全体の16%を占めて三者の中では最も高く、また「わからない」がおよそ15%と、前年度よりも増加している。生徒、教職員と保護者の間に認識の違いがみられる項目である。	



【情報発信】

教育方針や情報の伝達

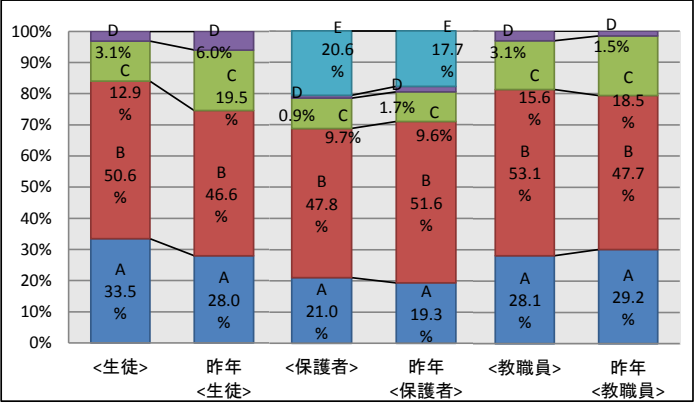
<保護者>	宇北高は、教育方針や学校の情報を保護者に積極的に伝えている。
<教職員>	本校は教育方針や学校の情報を保護者に積極的に伝えている。
◇保護者についてはA～Eの回答に前年と大きな差はない。保護者と教職員の評価を比較してみると、およそ85%の教職員は「情報を積極的に伝えている」と考えているが、保護者ではおよそ66%に留まり、逆に、保護者の約25%が学校からの情報が不十分と考えていることが分かる。	



【国際理解教育】

内容の充実

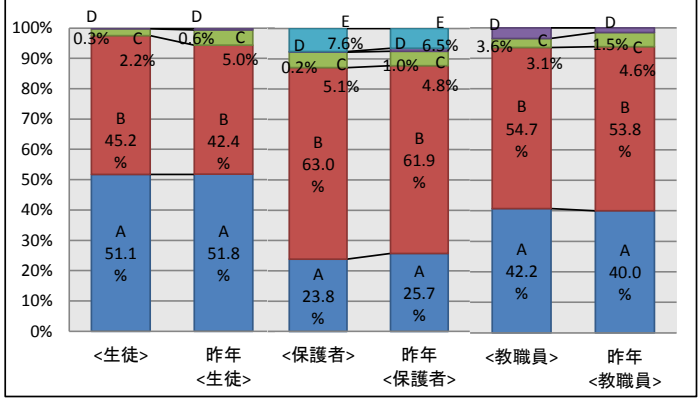
<生徒>	宇北高の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
<保護者>	宇北高の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
<教職員>	本校の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
◇生徒は「大いにそう思う」と「そう思う」の肯定的な評価がともに増え、併せるとおよそ85%の生徒が国際理解教育について前向きに評価している。これに対し、教職員ではAとBを併せた肯定的な評価は若干増えているものの、「全く思わない」も僅かながら増えている。また保護者は「あまり思わない」と「全く思わない」を併せた否定的な評価の割合は変わらないが、「大いにそう思う」と「そう思う」を併せた肯定的な評価が減って、「わからない」が増えている。このあたりの認識の違いについては分析、検討が必要であろう。	



【部活動】

活発さ

<生徒>	宇北高は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
<保護者>	宇北高は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
<教職員>	本校は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
◇部活動・生徒会活動については生徒、教職員で95%前後、保護者は「わからない」の回答がある分、若干下がるが、およそ87%という高い割合で「活発に行われている」と評価している。特に実際に活動している生徒は、前年度、今年度ともに半数以上が「大いにそう思う」と回答している。	

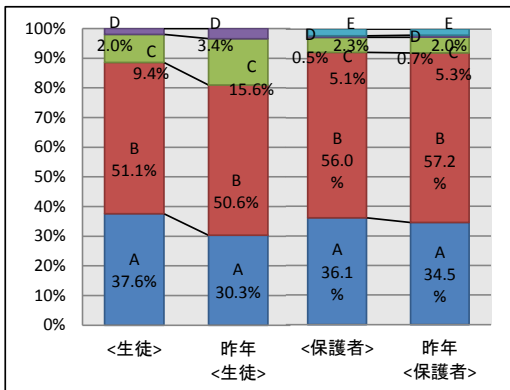


【教育活動全般①】

【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

宇北高生としての誇り

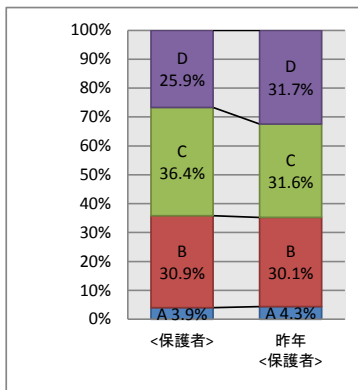
<生徒>	私は、宇北高の生徒であることに誇りをもっている。
<保護者>	私は、子供が宇北高の生徒であることに誇りをもっている。
◇生徒は前年度比で8ポイントほど「大いにそう思う」と「そう思う」を併せた肯定的な評価が増えた。保護者は前年とほぼ変わらない。生徒、保護者ともに全体の凡そ9割が「宇北高生としての誇り」を持っていると評価している。	



【教育活動全般②】

ホームページ

<保護者>	宇北高のホームページを見ている。
◇「全く見ない」が6ポイントほど減っているが、AまたはBと答えた比較的頻繁に見ている保護者の割合は、前年度とほとんど変わらない。本校HPがスマートフォンでも見ることが出来て、生徒の日常も含めた学校の情報を知ることができる手段であることを、もっとPRするとともに、もっと見やすく、興味をもって見てもらえるHPを工夫する必要がある。	

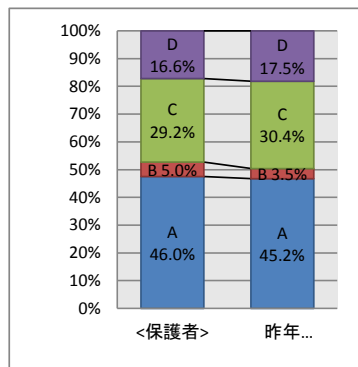


- D,見ていない
- C,1～2回見たことがある
- B,時々見る
- A,積極的に見ている

【教育活動全般③】

PTA総会・学年保護者会への参加

<保護者>	私はPTA総会や学年保護者会に参加した。(授業参観のみを含む)
◇A～Dのどの回答項目も前年度と大きな変化はない。総会参加が全体のほぼ半数であり、もう少し総会への参加を呼び掛け、PRする工夫が必要かもしれない。	

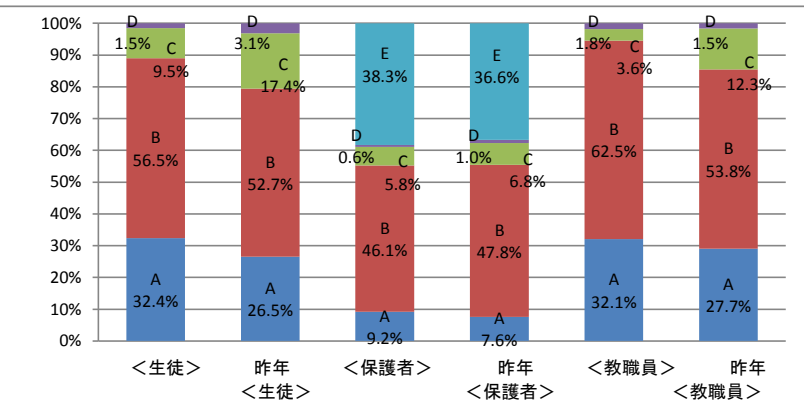


- D,どちらも不参加
- C,学年保護者会のみ参加した
- B,PTA総会のみ参加した
- A,両方参加した

【いじめ対応】

【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

<生徒>	宇北高は「いじめを許さない学校づくり」に努めている
<保護者>	宇北高は、「いじめ」に対し、「基本方針」に基づいてしっかり対応している
<教職員>	本校は、「いじめ」に対し、「基本方針」に基づいてしっかり対応している
◇本校のいじめ対応については、生徒・教職員は肯定的な評価が前年度比で10ポイント前後増加しており、全体のおよそ90%が対応を前向きに捉えている。一方保護者では否定的に捉えている割合は全体の7%程度であるが、「わからない」と答えた保護者が全体の40%弱に上る。問題の性格上あまり公になるものではなく、保護者の回答は止むを得ない部分もあるが、生徒、保護者、教職員ともに少数ながら否定的な評価もあるので、今後とも改善の取り組みが必要だと思ふ。	



3 改善に向けた今後の取り組み

- ◆今年度は前年度比較で、生徒、保護者、教職員のいずれも肯定的・好意的な回答の割合（「大いにそう思う」・「そう思う」の合計）が増加した質問が多かった。生徒に関しては、学年ごとの変化を見てみると、例年2年生で肯定的・好意的な評価が減る質問での落ち込みがなく、むしろ評価をあげている傾向がみられ、これが全体の肯定的な評価をあげる結果になっている。
- ◆今後、本アンケートの結果を踏まえて各部各学年での自己評価を行う。次いで学校評議員等の学校関係者のアンケートを踏まえて、今年度の重点目標の達成状況や達成に向けた取り組み状況を把握、整理する。そのうえで次年度に向けての改善方策の検討を行い、来年度の重点目標を決定したい。